

## (23) 浮魚類資源調査

### 調査方法

#### 1. 調査地点

##### 漁獲調査

中部標本船、および南部標本漁協における漁獲データをとりまとめた。

##### 卵稚仔調査

大阪湾全域 20 定点（浅海定線調査に準じる）

#### 2. 調査期間

2010 年 1 月～12 月

#### 3. 調査項目

巾着網魚種別漁獲量、シラス漁獲量、シラスの混獲割合、カタクチイワシ卵稚仔採集数等

### 調査結果

表 1～5 のとおり。

### 担当者

山本圭吾、池田仁志

表 1 巾着網魚種別漁獲量

	漁獲量単位:トン											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
出漁日数	8	10	1	9			12	15	14	10	3	4
操業回数	37	40	4	35			78	84	102	52	10	17
マイワシ	1.2	6.0	0.2				2.6	0.9	7.8			
カタクチイワシ	35.2	183.5	7.2	48.9			371.8	892.2	1213.4	0.3		
コシロ			1.2				14.5	15.7	2.8	95.0		11.9
サバ類										2.2		
マアジ		0.4	0.1				0.2	0.6	0.9	0.6		
マルアジ								0.1	1.0	5.9		
その他	39.6	49.2	91.8	47.7			62.4	104.1	19.2	79.8	14.4	15.6
合計	76.0	239.2	100.5	96.6	0.0	0.0	451.5	1013.6	1245.2	183.8	14.4	27.5

表2 パッチ網標本漁協におけるシラス漁獲量

2010年	着業統数	のべ出漁日数	単位 : kg	
			漁獲量	CPUE
1月	0	0	0	—
2月	0	0	0	—
3月	0	0	0	—
4月	4	4	275	68.8
5月	7	94	125,450	1334.6
6月	7	130	281,500	2165.4
7月	7	43	44,000	1023.3
8月	4	16	2,550	159.375
9月	7	65	16,350	251.5
10月	7	122	117,075	959.6
11月	7	89	64,425	723.9
12月	5	16	5,100	318.8
合計	0-7	579	656,725	1134.2
前年	0-7	444	326,781	736.0
平年	—	—	305,326	—

※平年値は1985年から2004年までの20か年の平均値  
ただしイカナゴ漁を除く

表3 シラス混獲割合と平均全長（その1）

採集日	5月7日	5月17日	5月25日	6月3日	6月14日	6月25日
マシラス	0	1	0	0	0	0
カタクチシラス	120	120	120	120	120	130
ウルメシラス	10	2	29	7	0	1
マシラス	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0
カタクチシラス	92.3	97.6	80.5	94.5	100.0	99.2
ウルメシラス	7.7	1.6	19.5	5.5	0.0	0.8
マシラス	—	32.5	—	—	—	—
カタクチシラス	23.9	24.0	29.1	24.0	25.5	30.1
ウルメシラス	23.8	24.1	26.0	24.0	—	34.5

上段：混獲尾数 中段：混獲割合(%) 下段：平均全長(mm)

表3 シラス混獲割合と平均全長（その2）

採集日	7月1日	10月1日	10月12日	10月29日	11月11日
マシラス	0	0	0	0	0
カタクチシラス	124	127	125	125	125
ウルメシラス	0	0	0	0	0
マシラス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
カタクチシラス	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
ウルメシラス	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
マシラス	—	—	—	—	—
カタクチシラス	28.1	22.5	25.6	26.3	30.6
ウルメシラス	—	—	—	—	—

上段：混獲尾数 中段：混獲割合(%) 下段：平均全長(mm)

表4 カタクチイワシ卵の定点別採集数

定点\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
1	0	0	0	0	0	811	1	7	15	2	0	0	836
2	0	0	0	0	0	11	1	2	0	0	0	0	14
3	0	0	0	0	0	31	0	2	1	0	0	0	34
4	0	0	0	0	0	19	1	7	0	0	0	0	27
5	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	4
6	0	0	0	0	138	1	0	1	3	1	0	0	144
7	0	0	0	0	7	0	3	14	1	0	0	0	25
8	0	0	0	0	14	0	1	1	0	1	0	0	17
9	0	0	0	0	1	143	14	0	0	6	0	0	164
10	0	0	0	0	3	146	4	0	0	1	0	0	154
11	0	0	0	0	11	930	2	2	24	9	0	0	978
12	0	0	0	0	26	67	26	1	129	0	0	0	249
13	0	0	0	0	4	14	0	154	51	4	0	0	227
14	0	0	0	0	222	30	24	5	77	1	0	0	359
15	0	0	0	0	67	6	2	0	2	3	0	0	80
16	0	0	0	0	42	1	0	0	72	135	0	2	252
17	0	0	0	0	5	9	0	4	473	2	0	0	493
18	0	0	0	0	3	1	0	0	3	6	0	0	13
19	0	0	0	0	8	127	8	54	12	9	0	0	218
20	0	0	0	0	136	1	1	1	0	0	0	0	139
合計	0	0	0	0	689	2350	88	255	863	180	0	2	4427
1曳網あたり	0	0	0	0	34.45	117.5	4.4	12.75	43.15	9	0	0.1	221.35

表5 カタクチイワシ卵の年別採集数

マルチネット1曳網当たりの採集卵数(粒)												
年	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979	1980	1981	1982	1983
採集数	21.9	9.8	3.7	16.2	20.3	70.3	17.4	4.2	0.7	6.7	6.9	41.5
年	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995
採集数	8.8	9.6	15.1	10.4	2.9	6.3	8.4	9.6	1.7	0.8	12.7	6.1
年	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
採集数	16.7	3.9	4.9	15.5	33.2	20.2	38.7	19.1	10.8	10.1	18.0	16.3
年	2008	2009	2010									
採集数	9.4	13.4	18.4									

## 平成22年春季シラス(5～6月前半)漁況予報

平成22年4月30日  
水産技術センター

### 1. 海況の概況

室戸岬、潮岬沖の黒潮は、昨年は5月以降、概ね接岸傾向で推移していました。本年は、C型とよばれる蛇行型の流路(別図)をとっていますが、3月に一時離岸した以外は接岸傾向で推移しており、現在も室戸岬から潮岬で接岸している状況にあります(表)。今後の黒潮は独立行政法人水産総合研究センターの情報によると、室戸岬と潮岬の間では6月まで接岸傾向で推移すると考えられています。4月20日に水産技術センターが紀伊水道で行った来遊環境調査でも、友が島水道近くまで黒潮系暖水の進入が確認されており、当面紀伊水道への外海系水の流入状況はよいと考えられることから、今期の来遊環境は良好であると予測されます。

### 2. カタクチイワシ卵の出現量および漁況の概要

本年2、3月の外海全域の調査によれば、カタクチイワシ産卵量は前年の44%、平年と比べても44%と、平均的な産卵量であった昨年、平年とも下回った模様です。3月の徳島県、和歌山県の情報によると紀伊水道外域では、カタクチイワシ卵は西部、東部とも出現は低調で前年、平年を大きく下回っていました。また、紀伊水道内でも少量の出現にとどまっています。さらに大阪湾内でも4月上旬の水産技術センターの調査では卵の出現は見られず、兵庫県立農林水産総合技術センターの中旬調査でも卵の出現はごく少数の採集であったことから、本年の産卵はまだ本格化していないと推測されます。

紀伊水道における本年春季漁(カタクチシラス)は、和歌山県側では4月15日から開始されましたが、現在のところ外域では好調ですが、水道内では低調に推移している模様です。また、徳島県側では前年より遅い4月24日頃から漁が始まったようですが、漁はいまだ本格化していない模様です。

### 3. 漁況の予測

大阪湾で春季に漁獲の対象となるシラスは、外海域(日向灘～紀伊水道)で発生し補給されるマシラス、カタクチシラスが主体となります(近年、マシラスは減少し、漁期初めからカタクチシラスが大部分を占めることが多い)。このため、大阪湾での春季シラス漁の好、不漁は外海域での両種の発生量が多いか、少ないか、さらにそれらがシラスとなって大阪湾まで補給されるかどうかにより決定されます。

昨年は当初比較的好調でしたが、内海発生群が加入すると考えられた5月下旬に魚群が消滅したことから、春季漁としては不漁となりました。

今期は、来遊環境は良好と考えられますが、これまでのところ外海での発生量が低調であることから、大阪湾内へのシラスの来遊は当面低水準であると推測されます。ただし、紀伊水道外域では好調であること、水道内の漁場が北上してきていることに加え、外海で親となる大型のカタクチイワシが比較的多く漁獲されており、水温の上昇により今後の産卵が活発になれば、例年より遅れて湾内に補給される可能性があります。一方、本年は湾内の水温も低く、気象庁の3ヶ月予報でも気温は5月上旬まで低め傾向と予測されていることから、大阪湾内発生群の資源への加入も遅れると考えられます。

これらのことから、本年の春季シラス漁は、漁期は遅れ気味ですが、不漁であった昨年以上を上回る漁となるでしょう。

なお、今後の大阪湾内発生群の状況については、5月中旬に大阪湾におけるカタクチイワシの産卵情報を、また、夏季シラス漁、マイワシ、カタクチイワシ漁については例年どおり6月上旬に再度漁況予報を発表する予定ですので、参考にしてください。

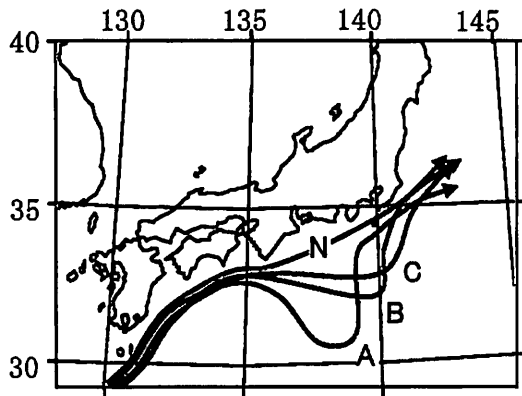
表 潮岬沖における黒潮の離岸距離  
潮岬沖黒潮の離岸距離

単位：海里(1M=1852m)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
一昨昨年	34	46	38	26	21	27	30	17	20	20	19	12
一昨年	19	20	21	40	18	20	23	23	20	30	19	25
昨年	30	28	24	41	23	21	20	18	26	19	19	21
本年	25	24	29	18*								

\*本年4月は中旬まで \*\*網がけは離岸傾向を示す

海上保安庁「海洋速報」



\*黒潮の流路

黒潮はその流れ方によってA, B, C, N型とそれぞれ名前が付けられています。現在はC型と呼ばれる蛇行型の流路をとっています。

※川合英夫(1972)：海洋物理Ⅱ，東海大学出版より作成

## 平成22年イワシ類漁況予報

水産技術センター  
平成22年6月 日

### 1. 海況の概況

#### ○水温(大阪湾、10m層)

大阪湾の水温は、本年1月以降6月までほぼ「平年並み」で推移しています(図1)。今後の大阪湾の水温は、気象予報等から判断すると、概ね平年並みで推移するものと考えられます。

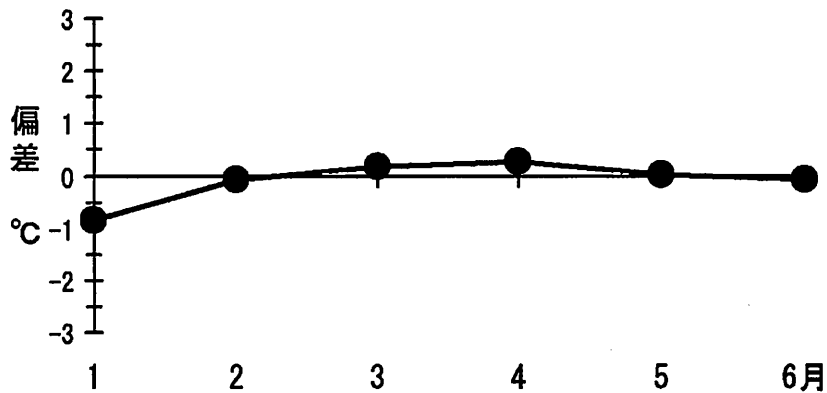


図1 大阪湾の水温平年偏差 (10m層、20定点平均値)

#### ○黒潮(潮岬正南沖)

昨年4月以来概ね接岸傾向で推移していた潮岬沖の黒潮は、3月に一時離岸したものの、4月には再び接岸し、6月中旬においては接岸傾向が維持されています。独立行政法人水産総合研究センターの情報によると、小蛇行の通過により7月にいったんやや離岸した後、8月再び接岸すると予想されています(表1)。

潮岬沖黒潮の離岸距離		単位：海里(1海里=1852m)											
年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
一昨昨年	34	46	38	26	21	27	30	17	20	20	19	12	
一昨年	19	20	21	40	18	20	23	23	20	30	19	25	
昨年	30	28	24	41	23	21	20	18	26	19	19	21	
本年	25	24	29	19	20	20							

\*本年4月は中旬まで \*\*網がけは離岸傾向を示す

海上保安庁「海洋速報」

## 2. イワシ類の漁況、卵の出現状況と予報

### (1) 夏シラス (6月後半～8月)

#### ・漁況の概況

本年の大阪湾における春シラス漁は、前年より早い4月下旬から始まりましたが魚影が薄い上に天候が悪く、出漁は一部のみでした。その後、5月に入ってから、紀伊水道からの流入が良好で比較的安定した漁獲となり、昨年を上回る漁況となりました。さらに、6月になっても海況条件はよく、好調な漁況は維持されています。一方、大阪湾内発生群の加入は前年に比べて遅く、6月中旬頃と推測されますが、現在は紀伊水道からの流入群と大阪湾内発生群をともに漁獲している模様です。

#### ・カタクテイワシ卵の出現

本年のカタクテイワシ卵は、5月から出現がみられ、5月にプランクトンネット1曳網当たり34.5粒、6月は同117.5粒でした。これを昨年、平年と比較すると、5月は昨年の47.0%、平年の150.2%、6月は同じく279.1%、291.6%となり、5月に昨年を下回ったものの、平年を上回る量となっています。これらのことから、本年5～6月上旬の大阪湾におけるカタクテイワシの産卵は、昨年、平年と比べて好調であったと推定されます。

卵の出現は5月は明石海峡と関空を結ぶ線より北部の海域、6月は関空周辺を中心とする東部海域でしたが、6月は発生が不良な卵がやや目立つ傾向が見られました(表2、図2)。

表2 カタクテイワシ卵の採集数

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平年	0	0	0	0.4	22.9	40.3	30.4	25.7	23.1	4.9	1.1	0
過去5年	0	0	0	0.8	35.6	46.6	29.3	22.8	20.3	3.8	1.6	0
昨年	0	0	0	0.0	73.3	42.1	17.2	9.9	9.8	6.2	1.4	0.6
本年	0	0	0	0.0	34.5	117.5						

平年値 : S60-H21 (25年)の平均値 プランクトンネット1曳網当たりの採集数(粒)

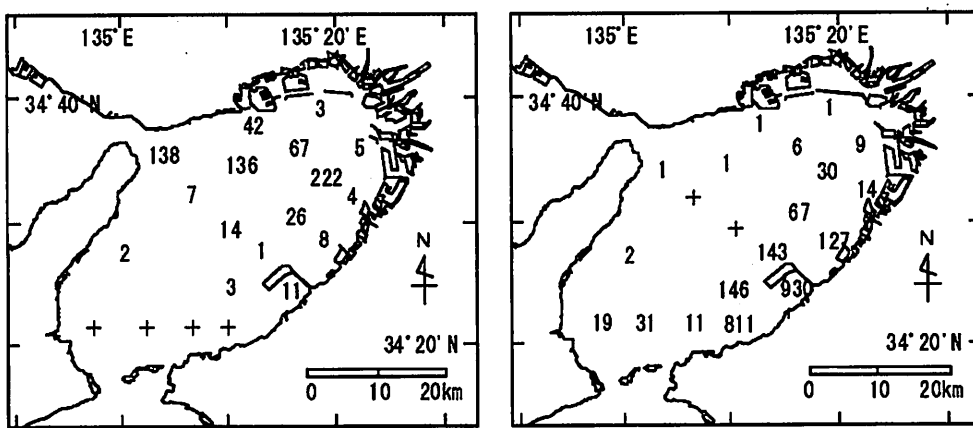


図2 カタクテイワシ卵の採集数(プランクトンネット1曳網あたり)  
\*図中+は出現なし

・漁況予報

大阪湾における夏シラス漁は、外海発生群(紀伊水道を通過して大阪湾に来遊する)が春シラスに引き続き漁獲されるのに加え、大阪湾発生群が6月以降シラスとなって漁獲物に加入します。両発生群の漁獲割合については詳細な調査はしていませんが、海況条件の良い年には好漁年が多いことから、外海発生群の占める割合の方がいくぶん高いものと考えています。

現在、黒潮が接岸傾向であることから、大阪湾への来遊条件はよいのですが、7月には離岸すると予想されていることから、7月以降の外海発生群の漁獲はあまり期待はできません。一方、本年夏季の大阪湾発生群は、カタクテイワシ卵の採集状況等から、平年を上回ると推測されます。ただし、6月の卵に発生不良なものが多く見られたこと、卵の出現に比較して稚仔が少ないことなどから、生き残りの条件はあまりよくない状況にあることが推察されます。

以上のことから、本年の夏シラス漁は、昨年並か下回る漁況となるでしょう。

(2) カタクテイワシ

大阪湾におけるカタクテイワシ漁は漁期当初は昨年発生1歳の魚を、その後、春季にシラスとして漁獲された0歳魚を主体に漁獲されます。昨年カタクテイワシ漁は、8月まで平年を大きく上回る漁獲が見られました。さらに早春期にも大阪湾内でカタクテイワシの親魚の漁獲がみられ、現在も大阪湾に滞留している1歳魚は多いと考えられます。このことと、本年春、夏シラス漁況から判断して、本年のカタクテイワシ漁は、昨年並か上回ると考えられます。

(3) マイワシ

マイワシは全国的に減少傾向にあります。全国の漁獲量は昭和63年に460万トンもありましたが、平成10年には17万トンまで減少しました。その後、平成14年以降は3~8万トン程度の低水準にあります。

大阪府においては昭和62年からマイワシ漁獲量に減少傾向がみられ、平成10年には最も漁獲量の多かった昭和57年の1000分の1にまで減少しました。現在も依然低水準ですが、18年以降若干回復傾向も見られています。

独立行政法人水産総合研究センターの情報によると本年春季(2、3月)の外海域におけるマイワシの産卵規模は全体的に小さく、産卵量は、低水準であった昨年を下回るものであったと考えられます。ただし、紀伊水道では、春期に比較的まとまったマシラスの漁獲があったこと、本年は当初から海況の条件が良好であったことから、ある程度は湾内に流入していることが推察されます。

このようなことから、本年の大阪湾におけるマイワシ漁は、依然低水準ですが、0才魚(ヒラゴ)は昨年並みか上回ると考えられます。

今後大阪湾におけるカタクテイワシの産卵状況については毎月中旬に、また、秋季シラス漁については昨年同様9月、11月に再度漁況予報を発表する予定ですので、参考にしてください。



## 平成22年秋季（9～10月）シラス漁況予報

水産技術センター  
平成22年9月 日

### 1. 現在までの海況、漁況等の状況

#### (1) 海況

##### ○水温（大阪湾、10m層）

大阪湾の10m層水温は8月までは概ね平年並みで推移しましたが、9月は一転基だ高めとなっています。今後の水温は、気象予報（気象庁、9～11月の予報）を勘案すると、高めの傾向で推移するものと推測されます。

（図1）

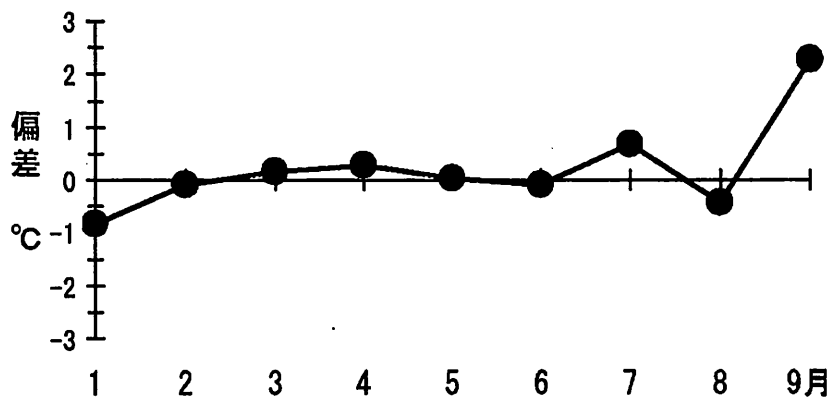


図1 大阪湾の水温偏差（10m層、大阪湾20定点平均）

##### ○黒潮（潮岬正南沖）

昨年5月以来概ね接岸傾向で推移していた潮岬沖の黒潮は、3月にやや離岸しましたが、4月以降は再び接岸し、7月中旬にやや離れたものの現在まで接岸傾向が維持されています（表1）。今後の黒潮の動向は、独立行政法人水産総合研究センターの情報によると、9月～10月に一時離岸するものの、その後は接岸傾向になることが予測されています。

表1 潮岬沖黒潮の離岸距離 単位：海里（1海里=1852m）

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
一昨昨年	34	46	38	26	21	27	30	17	20	20	19	12
一昨年	19	20	21	40	18	20	23	23	20	30	19	25
昨年	30	28	24	41	23	21	20	18	26	19	19	21
本年	25	24	29	19	20	19	24	16	15*			

\*本年9月は上旬まで \*\*網がけは離岸傾向を示す

海上保安庁「海洋速報」

(2) 漁況

本年の大阪湾における春シラス漁は、前年より早い4月下旬から始まりましたが、魚影が薄い上に天候が悪く、出漁は一部のみでした。5月に入ってから、紀伊水道からの流入が良好で比較的安定した漁獲となり、6月まで昨年を大きく上回る漁況となりました。一方、大阪湾内発生群の加入は前年に比べて遅く、6月中旬頃と推測されますが、7月上旬まで紀伊水道からの流入群主体であった模様で、7月中旬には漁が途切れしました。現在は一部の漁船は出漁していますが、ほとんど休漁状態となっています。

(3) カタクチイワシ卵

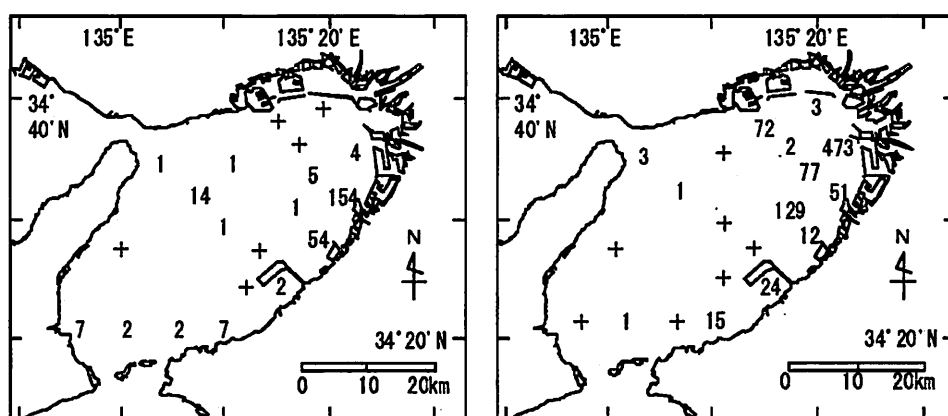
本年のカタクチイワシ卵の採集数は、8月はプランクトンネット1曳網当たり12.8粒、9月は43.2粒でした。これを平年、昨年と比較しますと、卵の採集数は8月は平年の49.6%、昨年の129.4%とかなり少ない状況でしたが、9月は平年の186.4%、昨年の440.3%と9月に入り産卵が活発化した模様です。また、卵の分布をみると、8月、9月ともは主に湾奥の沿岸域で採集されてきました。

以上のことから、本年8、9月の大阪湾におけるカタクチイワシの産卵量は、本格的な産卵の開始は遅れたものの、低調であった昨年を上回り平年並みであったと推定されます。(表2、図2)

表2 カタクチイワシ卵の採集数

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平年	0	0	0	0.4	22.9	40.3	30.4	25.7	23.1	4.9	1.1	0
過去5年	0	0	0	0.8	35.6	46.6	29.3	22.8	20.3	3.8	1.6	0
昨年	0	0	0	0.0	73.3	42.1	17.2	9.9	9.8	6.2	1.4	0.6
本年	0	0	0	0.0	34.5	117.5	4.4	12.8	43.2			

平年値 : S60-H21 (25年) の平均値 プランクトンネット1曳網当たりの採集数 (粒)



平成22年8月

平成22年9月

図2 カタクチイワシ卵の採集数(プランクトンネット1曳網当たり)

## 2. 漁況予測

この時期のカタクチイワシの卵は産卵されてからシラスとして漁獲され始めるまで約3週間、主漁獲対象になるまでほぼ1ヶ月かかります。そのため8、9月の卵の量と、この間の生き残りが秋シラスの漁獲量に大きく影響します。

本年8、9月の大阪湾におけるカタクチイワシの産卵量は前年を上回り平年並みであったと考えられます。今後の湾内発生シラスは8月の卵が低水準であったこと、大阪湾内の水温が依然かなり高い状況にあることから、9月中はあまり期待できません。また、他海域からのシラスの補給は、直近の紀伊水道の産卵量、漁獲量から判断してほとんど望めない状況にあります。一方、9月の大阪湾内の産卵状況は好転していることから、今後、生き残り条件がよければ予報期間後半の10月以降断続的に群れが出現する可能性はあると考えられます。

以上のことから、**本年秋季（9～10月）のシラス漁は、10月に比較的好漁となった前年並の漁となるでしょう。**

近年、晩秋季の11月以降、シラスが漁獲される例がたびたびみられるようになりました（平成17年、19年、20年など）。そのため、一昨年より秋季シラスを前半（9～10月）と後半（11～12月）に分けて予測しています。

今後も大阪湾におけるカタクチイワシの産卵状況については毎月中旬に発表するとともに、後半の秋季シラス漁況予測については、今後の卵の出現、親魚の状況、海況、他県の漁況等から10月下旬頃にあらためて発表する予定にしておりますので、参考にしてください。

## 平成22年秋季（11～12月）シラス漁況予報

水産技術センター  
平成22年11月 11日

### 1. 現在までの海況、漁況等の状況

#### (1) 海況

##### ○水温(大阪湾、10m層)

大阪湾の10m層水温は8月まで平年並み前後で推移していましたが、9月に基だ高めとなって以降、現在まで高め傾向となっています。今後の水温は、気象予報(気象庁、11～1月の予報)を勘案すると、水温は順調に低下し、平年並みで推移するものと推測されます。(図1)

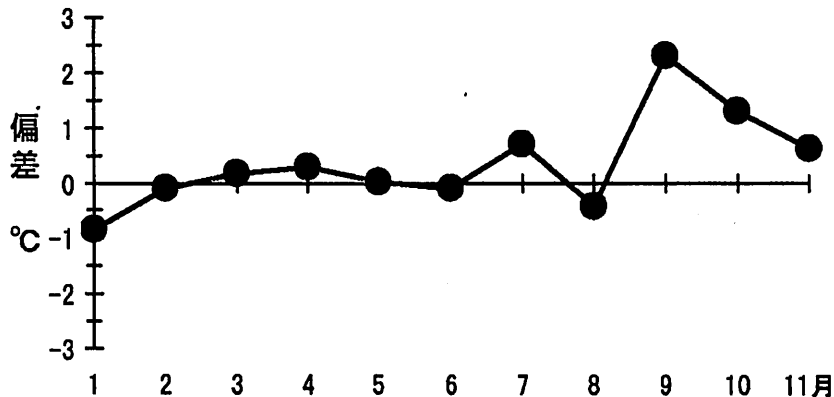


図1 大阪湾の水温偏差 (10m層、大阪湾20定点平均)

##### ○黒潮(潮岬正南沖)

昨年5月以来概ね接岸傾向で推移していた潮岬沖の黒潮は、3月にやや離岸しましたが、4月以降は再び接岸し、7月中旬にやや離れたものの現在まで接岸傾向が維持されています(表1)。今後の黒潮の動向は、独立行政法人水産総合研究センターの情報によると、本予報期間中は接岸傾向が続くことが予測されています。

表1 潮岬沖黒潮の離岸距離

単位：海里(1海里=1852m)

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
一昨昨年	34	46	38	26	21	27	30	17	20	20	19	12
一昨年	19	20	21	40	18	20	23	23	20	30	19	25
昨年	30	28	24	41	23	21	20	18	26	19	19	21
本年	25	24	20	19	20	19	24	16	20	18		

\*\*網がけは離岸傾向を示す

海上保安庁「海洋速報」

(2) 漁況 (9~10月)

本年の大阪湾における夏~秋シラス漁は、8月はほとんど漁がなく、9月も低調に推移しましたが、10月上旬ぐらいから漁況は上向き、中、下旬にはかなりまとまって漁獲されました。11月上旬現在、漁獲は減少気味ですが漁は続いています。

(3) カタクチイワシ卵

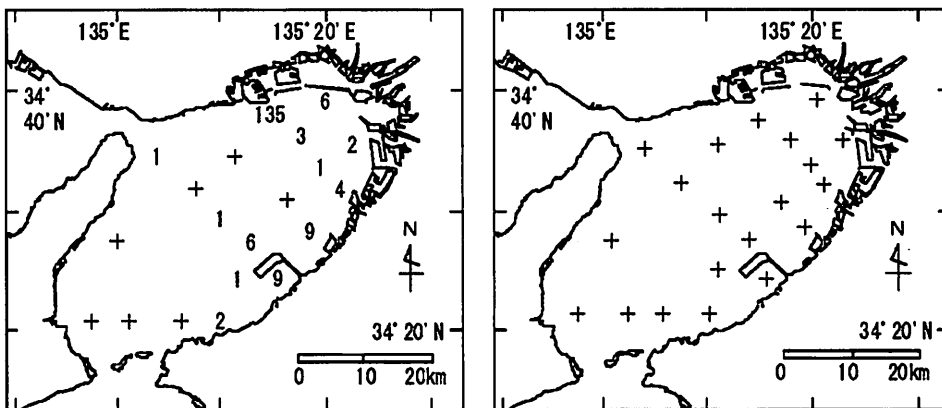
本年のカタクチイワシ卵の採集数は、10月はプランクトンネット1曳網当たり9.0粒、11月は0粒でした。これを平年、昨年と比較しますと、卵の採集数は10月は平年の184.3%、昨年の146.3%と、ともに大きく上回っていましたが、11月は一転、平年、昨年を下回っていました。また、卵の分布をみると、10月は湾奥~東部海域で採集されていましたが、ほとんどが神戸沖の1定点における採集でした。

以上のことから、本年10、11月の大阪湾におけるカタクチイワシの産卵量は、昨年並程度と推定されます。(表2、図3)

表2 カタクチイワシ卵の採集数

年\月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平年	0	0	0	0.4	22.9	40.3	30.4	25.7	23.1	4.9	1.1	0
過去5年	0	0	0	0.8	35.6	46.6	29.3	22.8	20.3	3.8	1.6	0
昨年	0	0	0	0.0	73.3	42.1	17.2	9.9	9.8	6.2	1.4	0.6
本年	0	0	0	0.0	34.5	117.5	4.4	12.8	43.2	9.0	0.0	

平年値 : S60-H21 (25年)の平均値 プランクトンネット1曳網当たりの採集数(粒)



平成22年10月

平成22年11月

図3 カタクチイワシ卵の採集数(プランクトンネット1曳網当たり)

## 2. 漁況予測

この時期のカタクチイワシの卵は産卵されてから主漁獲対象になるまで1ヶ月と少しかかります。そのため9月後半から11月の卵の量と、この間の生き残りが本予報期間のシラスの漁獲量に大きく影響します。

去年は、産卵水準は高くなかったものの平年を上回る採集数で、10月下旬までの漁況は、一昨年には及ばないもののほぼ平年並みの漁獲がありました。本年の秋シラス（前半）は8、9月の産卵が好調であったことに加え、紀伊水道からの流入もあったと推測されることから、10月中旬～11月上旬まで漁況は好調に推移しています。今後の湾内発生シラスは、10、11月の大阪湾におけるカタクチイワシの産卵規模が大きくないことから多くは望めません。また、黒潮は接岸傾向にありますが、他海域からのシラスの補給は、紀伊水道での漁獲が減少してきていることから、これまでほどは期待できません。

以上のことから、**本年秋季（11～12月）のシラス漁は昨年を下回るでしょう。**